

【第3分科会】利用統計を活かした蔵書構成と管理を考える

1 発表の要旨

『発表者名 大林晃美』

内容

1. 市立小諸図書館の概要と経緯

- ・旧図書館の概要
- ・新図書館準備室設置後の動き
 - 書庫資料の整理
 - 保存資料と除籍資料の区分け
 - 大々的な除籍作業
- ・臨時図書館への移転作業
 - IC タグの貼付（委託）
 - 引っ越し作業（委託）
- ・臨時図書館での運営
 - 混配の試行
 - 医療別置の試行
 - 3類の準備
 - 新図書館配架構想
- ・新図書館への移転作業（委託なし）

2. 新図書館の配架の考え方

3. 自館の基礎データ

4. 蔵書計画を立てる

5. 利用の実態

- ・貸出統計
 - 統計結果を受けて変更したこと、取り組んだこと
- ・利用統計
 - 第3回学校読書調査結果から考える図書館利用の課題

6. 参加者との情報交換

2 協議内容

参加者との情報交換の場面で行われた主な内容

- ・統計のデータが本の購入や除籍に活用できることが分かった。
- ・一般向け資料と児童向け資料を一緒に配架しているということが興味深かった。
- ・小諸市としての経過があるからこそ意味のある統計だと感じた。県内の他の図書館がそのまま同じように取り入れたとしてもあまり効果が上がらないと思う。館ごとの特徴に合わせる必要があるし、細かな統計を取るデメリットや大変さもあると思われる中で、小諸市は良く活用している。
- ・色々な規模の図書館がある中で、有効に活用できる統計はあるか？

どれくらいの本が動いているのかを、十進分類法の区分でも良いので、自分の館の実情を知るという意味で良いと思う。また、自分の感覚で何がどれ位動いているかを感じている部分を実際の数字とを見比べることで調整もできる。

また、利用者の目に触れる方が借りられ易い傾向があるので、利用率の低い本を館内で目立つ中央の位置で企画展示を行い、利用につなげている。

- ・どのようなジャンルの本がどの程度利用されているのか統計から読み取ることの大切さがわかった。ぜひ、自分の感覚と実際の数字とを見比べてみたいと思った。

・統計を活用した棚作りが出来ればと考えているが、現状のシステムでは難しい状態だが、配架別の統計などをぜひ取り入れていきたい。

3 指導助言

考察

図書館配属になって間もない方や、臨時職員なので統計業務には携わっていないという方も含まれてはいたが、実際に図書館業務に携わっている方には興味を持って聞いてもらえたように思う。県の図書館大会で、実際の図書館業務に関する分科会が開かれることは少ないので、継続されると図書館司書のスキルアップに相乗効果があるように思う。

